

2020年7月9日

学校法人三幸学園
東京リゾートアンドスポーツ専門学校
校長 五石 秀治 殿

学校関係者評価委員会
委員長 西川 壘

学校関係者評価委員会実施報告

2019年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 西川 壘 (株式会社ナズー・卒業生)
- ② 小林 岳彦 (株式会社共立メンテナンス・部長)
- ③ 島田 貴司 (飛鳥未来きずな高等学校・教頭)
- ④ 枇杷阪 弘且 (上真砂町会・町会長)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2020年7月8日 (会場 東京リゾートアンドスポーツ専門学校 205教室)

3 学校関係者委員会報告

別紙「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2019年度 学校法人 三幸学園 東京リゾートアンドスポーツ専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 生沼 作都

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 西川 壘

1. 学校の教育目標

三幸学園は、昭和60年の開校以来30年にわたり、『技能と心の調和』を教育理念に掲げ、教育を展開してきた。ここでは、社会への有益な職業人を数多く輩出することを目標に、“有益な職業人とは、専門的知識・専門的スキルを十分持ちながら、常に変遷する社会に対して柔軟に対応するため日々研究を続け、職業人としての使命感をしっかりと確立した人物”と定義し、心豊かな人間性を育む教育に注力している。

そして、学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、スポーツ分野の学校として「スポーツを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、スポーツ分野として「スポーツを通じて健康と楽しさを提供できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

この基本理念は、教職員に対しては、教職員手帳、「三幸学園の原点 あきらめない教育」に明記し配布しているほか、全教職員が一同に集う「ビジョンミーティング」、「サマーセミナー」においては、学園長及び理事長からの訓示の中で繰り返し唱え、学内で行われる年3回の全体会議にて共有化を図っているものである。また、生徒に対しては、「入学式」や「スタートアッププログラム」において、教職員からの言葉として示すとともに、本校独自のカリキュラム「スタートアッププログラム」の授業で使用する「夢のスケッチブック」に記載し周知を図っている。このほか、受験生、高等学校、保護者等に対しては、オープンキャンパス、高校訪問、保護者説明会などを通じて伝え、また、パンフレットに明記することにより学内外の周知に努めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

- ・ 業界に特化した専門人材を育成するための教育の実践

「スポーツを通じて健康と楽しさを提供できる人材」を育成することを目指す人材育成方針とし、単に知識や技術を研究するに留まらず、人間性を高める教育を併せて展開することにより、教育理念である「技能と心の調和」実践し、社会や業界に必要とされ、貢献できる人材を輩出することができた。

よりそのような人材を輩出するためには普段の勉強を実際の仕事に結びつける魅力ある授業を展開する必要がある

- ・ 業界で活躍できる人材を育成

各学科で「人材育成プラン」にて重点教育項目を作成し、全教職員への目合わせを行うほか、学科会を実施することにより、教育の質の向上を実現できるように計画をし、生徒の「できない」を「できる」に変えていくことに取り組んだが、まだまだ全教職員一丸となって取り組めなかったところはあった

また即戦力になるために関連施設実習で質の高い教育効果を提供する企業連携を推進したが、連携する企業をもっと精査する必要がある

② 学校関係者評価委員会コメント

【西川氏・全学科】

- ブランドコンセプトや人材育成プランは生徒のしっかりと落とし込めているのか？
- 人材育成プランは創ることが目的となっていないか？

【島田氏・全学科】

- 高等学校は人間形成に重きを置き、生徒の成長に関わっているので、その先の人材育成は専門学校を頼りにしている
- 生徒をどのように成長させていくかは、教職員の意識の統一が必要であり、積極的なコミュニケーションを取る必要がある
- 現在は生徒に合わせた個別対応が必要不可欠

【枇杷阪氏・全学科】

- 近隣から見ると生徒は一生懸命やっている様子は伺える
- 現代の子供たちには地域社会を学べる機会を多く取り入れる必要がある

【小林氏・全学科】

- 三幸学園の寮生は他と少し違い、目指す姿を理解しているように感じる
世代に物怖じしない・目を見て話せる・遠くからも挨拶する・手を差し伸べられる
- 他の学校にはない「三幸学園らしさ」を感じる

3.評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

- ・ 人材育成像が明確ではあるが将来の出口が多様化しており、人材像と就職先を結びつける必要性がある

② 今後の改善方策

- ・ 業界理解を早期に行うことができるような取り組みを検討し、職業意識を醸成する
- ・ 業界への理解を深める内容をホームルーム、キャリア教育などで実施し就職先と人材像を結びつける
- ・ 業界関係者から、教職員に向けた講義を頂く必要がある

③ 特記事項

- ・ 教育理念を基に人材育成をより体系化するべく三幸学園の教職員としてのビジョンを設定し、全教職員へ浸透している。業界ニーズを学ぶ為に、産学連携として、各種企業と提携を結び、業界の即戦力となる人材育成の為にカリキュラム等の意見をいただいている

④ 学校関係者評価委員会コメント

上記「前年度重点施策振り返り」と合わせてコメントをいただいた

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

- ・ 積極的に WEB 会議などを活用し、会議の効率化の推進
- ・ 姉妹校との連携、情報の共有をもっと図る必要がある
- ・ グループウェアや共有サーバー等を活用し、業務効率化をもっと図る必要がある
- ・ ICT を活用した学習システムの活用推進

② 今後の改善方策

- ・ 情報公開の在り方やより理解しやすい情報の公開方法を最優先に考え、必要な情報や不必要な情報の精査を図り、組織に必要な情報を共有していく
- ・ 簡易的方法で情報の公開や共有をリアルタイムに実施していく
- ・ 働き方改革に基づき、勤務体制の見直しを実施していく
- ・ ICT を通した学び方の確立と教材コンテンツの充実を検討していく

③ 特記事項

- ・ 年に 3 回の全教職員の会議を行い、運営方針の浸透や情報共有を積極的に行っている
- ・ 会議の中で意見交換なども時間の許す限り行い、学校運営に反映している
- ・ WEB 会議を通じて、タイムリーな姉妹校との情報共有や課題に対する施策なども行っている

④ 学校関係者評価委員会コメント

【西川氏・全学科】

- 大前提として生徒のメディアのリテラシーが低いと感じる
- メディア授業は自ら勉強する生徒には非常に良いツールになるが、できない生徒は手取り足取り教えなければならない

【島田氏・全学科】

- 西川氏と同じ意見になるが高校もメディア授業は自ら学ぼうとする生徒には非常に良いツールになる
- 高校も専門学校と同様に対面を重視し、できる限り対面で実施している

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- ・ 教育目標や人材育成像を設定していくにあたり、社会の動向や業界のニーズに基づき、更なる精度を高める必要がある

② 今後の改善方策

- ・ 企業や業界団体との関係性を高めることで、業界の動向を正確に把握する。その為にも、企業様や業界団体にも当校のことも理解して頂けるように、イベントの参加や企業様との連携を深めていく働きかけを続けていく
- ・ 収集した情報を多面的に評価及び精査し、教育課程の編成に活用できる仕組みを構築する
- ・ カリキュラムの人材育成像に基づく講師配置等を検討していく必要がある
- ・ 業界内にて現役で活躍している講師を積極採用していく

③ 特記事項

- ・ 学校教育の在り方を常に確認するために教員研修等を設定し、意見交換などのディスカッションの場を設け講師からも意見の吸い上げを実施する
- ・ 講師採用においては、学校と親和性の高い企業から人材の情報を積極的に提供頂く必要がある

④ 学校関係者評価委員会コメント

【西川氏・アスレティックトレーナー科・スポーツトレーナー科】

- 社会で活躍するためにはやはり資格取得は最低限であるため、学校の資格取得体制の構築は重要
学校の体制として「できる層を確実に合格させる」「助けなければならない生徒を伸ばす」どちらに注力するかはっきりさせることも必要となる
- 三幸学園の「あきらめない教育」を考えると「助けなければならない生徒を伸ばす」に力を入れるのが良いのではないか？

【島田氏・全学科】

- 飛鳥未来高校では「やればできる、きっとできる」を合言葉にあきらめずに生徒に関わっている
- 専門学校に進んだ飛鳥未来高校の卒業生を見ると先生の関り方次第で変わる生徒もいれば、そのまま何となく過ごしている生徒に分かれるため、三幸学園が大切にしている距離感で対応いただきたい

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・ 資格試験の受験率及び資格取得率の向上
- ・ 退学率低減に向けた取り組みを実践し、対応の難しい生徒指導方法の確立
- ・ 早期就職内定を取る為の施策の実施
- ・ 卒業生の社会的な活躍の情報収集

② 今後の改善方策

- ・ 資格取得に向けた動機付けを時期に併せて実施していく
教職員会議で定期的な生徒情報共有による、生徒指導の確立と全教職員の生徒指導スキル向上
- ・ 学科担当制を導入し、教科担当も巻き込み退学防止を講じていく
- ・ 企業における校内ガイダンスの実施増加、キャリア講習会や就職模擬面接の実施
- ・ 就職希望者に対する大手企業の魅力の動機づけ
- ・ 各クラス生徒状況報告を定期的実施し、現在の状況を共有し、傾向や今後の対策に活用する
- ・ 卒業生の活動状況の情報収集と把握
- ・ 卒業生に有益な情報をSNSサイトにて積極発信する

③ 特記事項

- ・ 2019年度就職決定率:96.6%(2020年3月31日現在)
- ・ 2019年度退学率:10.1%
- ・ Sanko Link(同窓会サイト)の活用による卒業生への情報提供を充実させている

④ 学校関係者評価委員会コメント

【小林氏・全学科】

- 学校の退学率に「退寮率」も似ているところがある(2019年度:退寮率 10%)
- 退寮率の8%が「学校の退学」が理由
- 生徒の「心」がどのように考え、感じているのかわからない部分が大きくなってきたので、いかにその「心」のケアをするかが大切と感じる
- 以前は寮長・寮母に気軽に相談する生徒がいたが、最近はしなくなったと感じるため、引き続き学校との連携を図っていければと思う

【島田氏・全学科】

- 高校としては進学先との連携は必要と感じるが、高校への進学先からの報告は少ない報告がある進学先は信頼できると感じる
- 三幸学園の専門学校に進学した生徒については首都圏で退学防止対策を行っている

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- ・ 入学前イメージと実際の学校生活のギャップの払しょく
- ・ 経済的に修学が困難な生徒に対しての支援の検討
- ・ 卒業生に対して、SNSを活用した案内は出来たが、具体的なアクションがまだまだ不足している

② 今後の改善方策

- ・ 入学前にも現実を伝え、入学後すぐに今後の学校生活に対して動機づけを実施し、理解した上で学校生活をスタートさせる
- ・ 社会情勢を鑑み、その情勢にあった経済支援を検討する
- ・ 学校カウンセラーの早期活用による退学示唆者への事前アプローチ実施
- ・ 業界のニーズと生徒のニーズに合わせたキャリア指導の実施
- ・ SNSによる卒業生への定期的な情報配信を実施し、さらに認知度を上げる
- ・ 卒業生求人管理と積極的なSNSでの公開

③ 特記事項

- ・ 新入生保護者を対象とした入学前保護者説明会を学科単位で実施
- ・ 自然災害等が発生した場合は経済支援を講じている

④ 学校関係者評価委員会コメント

上記(4)学修成果と合わせてコメントをいただいた

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

- ・ 更に質の高い教育を目指し、教育環境・体制を整備
- ・ 生徒のニーズに合わせたインターンシップ先の確保と整備
- ・ 親和性の高い実習施設への積極的な訪問

② 今後の改善方策

- ・ 社会のニーズに対応した職業教育を行うべく必要な教育の機会を企業からもアドバイスを頂く
- ・ 生徒のニーズに合わせたインターンシップ先の開拓するため、こちら側のスタンスをしっかりと伝える
- ・ 人材育成を一緒に考え、取り組んで頂ける企業との関係を構築する
- ・ 事前事後指導を企業にも関わって頂き、より充実させる

③ 特記事項

- ・ 新校舎につき、施設修繕は必要最低限とする

④ 学校関係者評価委員会コメント

【小林氏・全学科】

- 入寮者に対しては防災・安全管理に対しては周知して取り組んでいる
- 消防署・警察署と連携をして避難訓練など必要な安全管理対策を毎年、取り組んでいる
- ハザードマップもあるが活用しきれていない部分があり、改善の必要性を感じている

【枇杷阪氏・全学科】

- 町内会では行政に依頼して防災訓練を実施している
- 学校としても行政と連携して取り組んでいくことが大切ではないか？
- 学校行事として取り組み、生徒それぞれが地元に戻って、地元の防災訓練を経験するというように学校と地元を繋げることも必要と感じる

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・ 生徒募集活動は適切に行っているが、入学後の生徒状況や進路状況については生徒の母校等に積極的な情報提供ができていない
- ・ 入学前段階で、生徒の能力等の特記事項を把握しきれていない
- ・ 入学者から提出される書類の厳重管理がまだ不十分である

② 今後の改善方策

- ・ 首都圏地区の広報をサポートする首都圏広報室と情報を共有し、高校訪問にて生徒の出身高校の先生方へ状況を伝えてもらう
- ・ 出身校に特記事項を事前に共有してもらう。たとえば、発達障害などがある際には、程度を教えてもらうなど、連携を図っていく
- ・ 入試書類取り扱いにおけるルールを事務と設定し、徹底する

③ 特記事項

- ・ 学納金は、教育研究費、人件費、施設管理費などを算出基盤としている
- ・ 学納金の決定に際しては、他校の学費水準も把握して上で決定している

④ 学校関係者評価委員会コメント

【島田氏・全学科】

- 進学先とは連携が図れているため、特に大きなトラブルはない
- 不切や提出物については保護者も含め、しっかりと伝えていただけると助かる
- 進学先への提出書類の依頼が生徒から遅く、逆に進学先に迷惑をかけるケースもある
- 現在の飛鳥未来高校は定員の関係で新入学のみを受け入れている

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

現在、第2次中期計画(2018年度～2022年度)の対象期間中であるが、当該計画を着実に実行すると共に今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

- ・ 法令遵守の推進

② 今後の改善方策

- ・ 会議や掲示物などを通して、全ての教職員に法令遵守に対する啓蒙を継続的に図る

③ 特記事項

- ・ 平成 26 年度自己評価結果により公開を開始

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	2

① 課題

- ・ 数多くのボランティア活動がある中で教育効果を見込めるボランティア活動の選別等ができていない
- ・ 地域へ施設の提供を行い、地域密着の学校運営をしていく必要がある

② 今後の改善方策

- ・ ボランティアの依頼先と事前事後指導を行い、生徒の教育効果を高める事が出来る現場を確保する
- ・ 近隣住民へ相互理解を図る機会を創出する

③ 特記事項

- ・ 今までは豊島区主催の「としまスポーツまつり」で、当校の学生が高齢者向けの健康体操やこども向けレクリエーションなどを実施している。2019 年度より文京区とも連携し、障害者スポーツ（ブラインドサッカー等）にもボランティア活動の一環として協力することができた

④ 学校関係者評価委員会コメント

【枇杷阪氏・全学科】

- 2019 年度は町内イベントに協力してもらい、期待通りに動いてくれ、非常に助かった
- 2020 年度はコロナウイルスの影響で基本的に催事を中止としている
- 催事と合わせてストレッチや簡単なレクリエーションを学校も開催するなど検討してもいいのではないかな？
- 教員から提案ではなく、生徒たちが自ら考え提案できると尚良い
- 計画や事前準備など、生徒から町内会に提案し、学校はオブザーバーの位置で見守るなどすれば、生徒の学びの機会になり、町内会としてもそういった繋がりを持てると良いと感じている

【西川氏・全学科】

- 生徒にはどんどん「リアル」を経験させることが大事であり、それが質の高い学びに繋がる
- 昨年度同様に「学校を中心に町を創っていく」を念頭に地域への貢献を通して、地域と繋がり、生徒にはリアルを経験させ、自分たちの学校がある町を創っていく
- 生徒中心で三幸学園の強みを活かし、高齢者との触れ合うイベントを積極的に展開していく

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

業界に特化した専門人材を育成し、輩出する学校であり続けるためには業界人のスタートラインに立てるように基礎知識の修得や必要な資格の取得はもちろんのこと、人間性も向上させる必要がある。三幸学園の教育理念の「技能と心の調和」の実践を忠実にやっていくことが重要である。また、より多くの専門人材を輩出するためには学科でのオープンでリアルタイムな情報共有と質の高い連携を図り、個に対応する教師力の強化や学校全体として教務力の向上に取り組み、退学率の低減を確実に進めて行く必要がある。

教育内容は充実と質の向上ももちろんだが、「新しい学び方」にである「メディア授業」にも力を入れ、三幸学園が大事にしている【対面授業】と新しい学び方の【メディア授業】を【ハイブリット型】で展開する必要がある。その為にも教員自身一人ひとりが学ぶ姿勢を忘れずに「生徒のわかる」を一つでも増やす自覚と責任をもって、教育に対して真摯に向き合うことが大切である。学校のあるべき姿・望む姿を全教職員が理解・浸透し、自己評価の結果を踏まえ、業界や地域からも信頼され愛される学校になるように、課題解決に取り組みながら学校運営をしていく必要がある。

学校関係者評価委員からの総括

【枇杷阪氏】

- 町内会としては学校との良いつながりを歴史としてつなげていきたいと思っている
- 生徒は毎年、入れ替わるため、次の代に繋げていけるようにしてもらいたい

【西川氏】

- 地域のために何が貢献できるかを常に考える必要がある
- 生徒がリアルを経験できる「アウトプット」の機会を地域と連携して創っていく

【小林氏】

- 遠方から来た入寮生を安心・安全に支え、卒業させてあげたい
- ぜひ、寮生には学校で学んだことをしっかりと理解し、人間性(「三幸学園らしさ」)を高め卒業してほしい

【島田氏】

- 進学した先での退学率が気になるため、連携が当たり前になるようにしていきたい
- 高校で基礎体力だけでなく、進学先で学ぶ体力を付けさせ、送り出していきたい

以上